

2013 年度 小委員会活動成果報告

(2014 年 2 月 7 日作成)

小委員会名	建築の質感・色彩計画小委員会		主 査 名：山本 早里 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (光環境運営委員会)		委員長名：田辺 新一 主 査 名：古賀 靖子
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>建築における材料の質感と色彩を調査、評価し、質感を考慮した新しい色彩計画に寄与するデータおよび手法を提示することを目的とする。</p> <p>初年度：・色彩・質感に関する文献の収集、整理 ・色彩計画方法の事例収集 ・色彩調査の先行研究レビュー、これまでの実態調査の考察 ・アカデミックスタンダード策定のためのデータ解析 ・シンポジウムの立案</p> <p>2 年度：・色彩、質感に関する文献の分析、視覚効果の定量化 ・色彩計画方法の事例収集 ・建築材料と色彩に関する実態調査 ・アカデミックスタンダード策定の刊行 WG への移行準備 ・シンポジウムの実施</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：山本早里 (筑波大学) 幹事：土屋潤 (福岡大学) 委員：飯島祥二 (琉球大学)、池田圭介 (松田平田設計)、石田泰一郎 (京都大学)、稲垣卓造 (大同大学)、井上容子 (奈良女子大学)、大野治代 (大手前大学)、北村薫子 (武庫川女子大)、熊澤貴之 (岡山県立大学)、佐藤仁人 (京都府立大学)、中山和美 (東京電力)、名取和幸 (日本色彩研究所)、榎 究 (実践女子大学)、宮本雅子 (滋賀県立大学)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)	<p>都市・建築の色彩測定法規準策定 WG：学会としては最初となる色彩に関する規準づくりを目指す</p> <p>景観色彩計画 WG：国内外の色彩計画の事例収集を通じて、日本における景観色彩計画のあり方を探る</p> <p>建築材料と色彩の実態調査 WG：建築色彩と材料の使用実態調査を通し、具体的な色彩環境の基礎的データを収集し、建築色彩環境研究に対する基礎的検討と蓄積を行う</p> <p>建築空間における色彩・質感の視覚効果定量化 WG：色彩の面積効果等の視覚効果、質感、模様、パターン等の既往研究を収集し、成果を概観したうえで、可能なものは設計データとして定量化を行う。</p>		
2013 年度予算	70,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	1. 「建築空間の色彩知覚効果の定量化研究会」 参加者数 16 名
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	

目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. アカデミックスタンダード策定のためのデータ収集が進んでいる 2. 色彩計画方法の事例収集のための形式の検討が行われている 3. 質感の定量化に関する研究会を実施した 4. シンポジウムの立案を行っている
委員会活動の問題点・課題	1. 定員により、小委員会としての新規委員募集が難しいこと

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2013 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	<div style="text-align: center;">○</div> A B C D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>都市・建築の色彩測定法規準策定 WG では、アカデミックスタンダード策定のためのデータ解析が進んでいる。</p> <p>景観色彩計画 WG では色彩計画方法の事例収集のための形式の検討が行われた。</p> <p>建築空間における色彩・質感の視覚効果定量化 WG では、文献の収集を行い、質感の定量化に関する研究会を実施した。</p> <p>小委員会ではシンポジウムの検討を行っている。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。